

## <編集後記>

第13巻第1号を手にとってくださり、誠にありがとうございます。

本号を年度内に発行できる目処が立ったのは、川島啓二前編集委員長はじめ編集委員の皆さん、また多くの方々の支えによるものです。先ずはそのことに、ありがとうございますと伝えたく思います。

投稿論文は、研究4件と事例研究2件の計6件でした。5月31日まで延長となった緊急事態宣言下、対面実施を代替するオンライン等の授業が手探りで始まるなか、5月末という期限に本学会へ投稿いただいた(また投稿を検討くださった)会員の皆さんに敬意を表します。査読の結果、事例研究1件を採録できました。査読プロセスに加わっていただいた会員諸氏の御協力に御礼を申し上げます。学会会則にある『初年次教育に関する調査・研究とその成果の還元』を学会誌というかたちで維持できたことは、会員相互の尽力による賜物と感じているところです。

9月開催の学会理事会に編集委員会から提案し、本号の特集「コロナ禍における初年次教育」が実現しました。学術とは、研究とは、と立ち止まる前に、今この状況を何らかのかたちで記録しておくことこそが重要だろう、例えば10年後の会員へ届けるために、という委員会の総意を理事の皆さんが受け止め、多忙のなか、6名の理事が手を挙げ、執筆へと至りました。それぞれ理事の自発的な意思に基づいて執筆されたものです。

2020年12月末で締め切った原稿ですから、本号が発行される頃、お読みいただく頃には、古めかしい内容になっているかもしれません。それほど激変する時間を2020年から私達は過ごしています。僅か1年前のことが古めかしくなっても、本特集が、当時の熱量を思い起こし、経験から学ぶヒントになれば幸いに思います。

次号14巻におきましても、会員の皆様からの本学会への貢献を願ってやみません。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

初年次教育学会誌編集委員長 田中 岳(東京工業大学)